

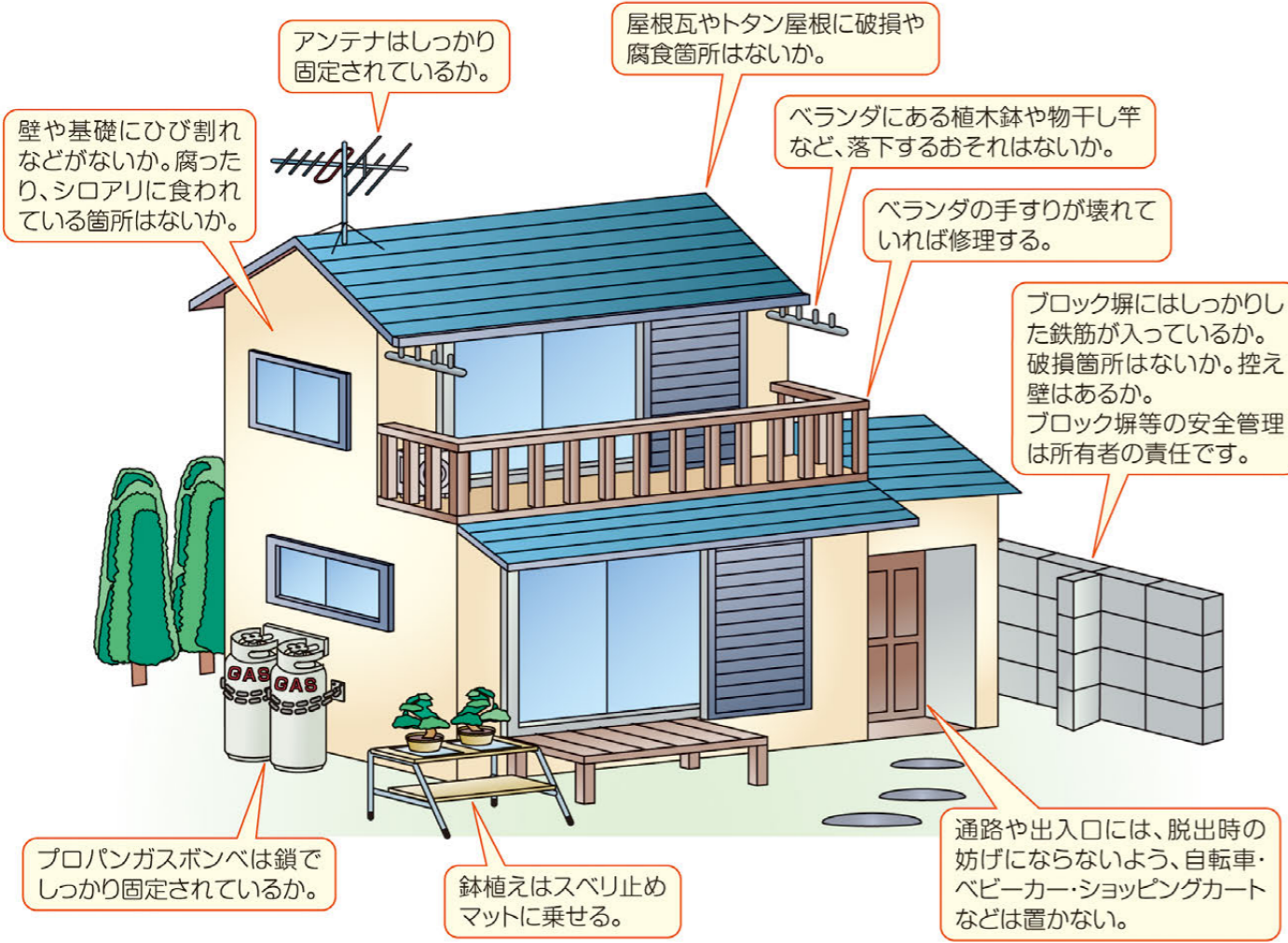
3 震災時の行動

備えあれば憂いなし!準備して防災力を高めましょう

(1) 自宅周囲の安全対策

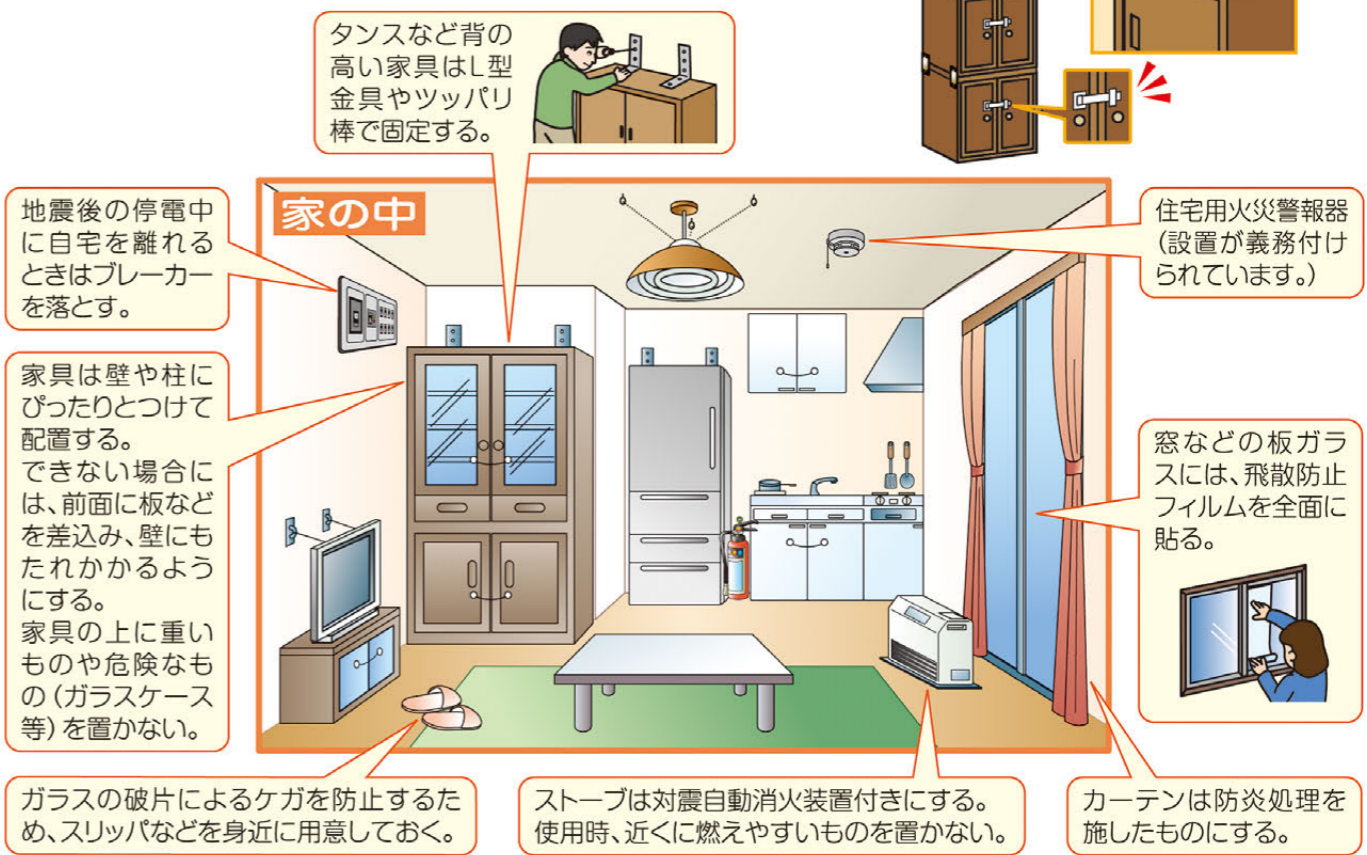
突然襲ってくる大地震に対して、もっとも有効な防御策の一つが自宅の耐震性確保です。震度6強の地震で、旧耐震基準の木造住宅が全壊する割合は、約5割とされ、耐震性の向上した新耐震基準ではこれが約1割になるとされています。住宅の倒壊で命を失うことのないよう自宅の耐震性を調べ、必要な補強等を行い、耐震性を確保することが大切です。

自宅の周囲を点検して、地震の揺れや雨風により、付属部が倒壊・落下・飛散等しないように補強をしておいてください。



(2) 室内の安全対策

地震でのケガの3~5割が、家具類等の転倒・落下・移動によるものとされています。家具類の固定は、比較的安価で、すぐに実施できる有効な安全確保策です。寝室や居間など過ごす時間の長い部屋から対策を始めてください。家具転倒防止器具は、防災用品専門業者やホームセンター等で購入できます。



- その他、以下のようなことも安全のために大切です。
- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
 - 玄関や廊下には家具や荷物を置かない。(避難の時の妨げになる。)
 - 子どもや高齢者の方のいる部屋や寝室には、倒れやすい大きな家具は置かない。

ご相談ください

- 住宅耐震診断・工事の助成
- 家具転倒防止器具の取付事業
- ブロック塀等の撤去補助
- 道路沿いの生け垣設置費補助

住宅課
防災課
公園緑地課

青梅市役所
電話 22-1111(代)

震度と揺れ等の状況(概要)

※気象庁発表の震度階級の解説による

4 [震度4]

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱 [震度5弱]

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強 [震度5強]

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多い。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱 [震度6弱]

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強 [震度6強]

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや傾斜地の崩壊が発生することがある。

7 [震度7]

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。